

「地域密着型金融推進計画」進捗状況について

平成17年8月に策定いたしました「地域密着型金融推進計画」の平成17年4月～19年3月までの進捗状況についてご報告いたします。

当金庫は、金融庁より公表された「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム(17～18年度)」に基づき、「リレーションシップバンキングの機能強化計画」(平成15年度～16年度)を踏まえ、また、平成18年度からスタートしました当金庫の長期計画「Meguro Style(めぐろスタイル)2006～」(平成18年4月1日～平成21年3月31日)に基づき、当金庫の目指すべき金庫像「最大限の機動力を発揮して地元の安心と豊かさに貢献する」の実現に向け、「地域密着型金融推進計画」を推進してまいりました。

1. 全体的な進捗状況について

この期間中の取組みの中で、当初計画しておりました取組み策については、態勢面の強化を中心にほぼスケジュール通りに進めることができました。

今後は、この2年間の機能強化計画の実績を活かし、更なる地域経済への貢献に取り組んでまいります。

2. 主要項目の進捗状況について

(1) 事業再生・中小企業金融の円滑化

「最大限の機動力を発揮して地元の安心と豊かさに貢献する」の基本理念をもとに営業店と本部企業再生グループが一体となり、お客様に適した支援を行うことを第一として、新たに支援先企業を追加する等、取組みの強化を図りました。この結果、経営改善取組み先30先のうち11先の企業が経営改善に至りました。

この2年間の新しい取組みとして、事業再生ファンド組成への参画や新銀行東京との業務提携等をいたしました。今後も中小企業の資金調達の多様化や中小企業金融の円滑化に向けて取組みを強化してまいります。

また、目利き、情報収集、適切な再生支援という職員の能力向上に向けた取組みを強化し、研修の実施や本部担当部署による臨店指導を全店実施してまいりましたが、今後も更なる人材育成に努めてまいります。

(2) 経営力の強化

バーゼル(新しい自己資本比率規制)対応に向けた取組みを進める中で、リスク計測に対するシステムや態勢面も含め、リスクの計量化への取組みが進捗し、バーゼルへの対応も整いました。また、ALM委員会やリスク管理委員会において統合的なリスク管理態勢について検討を行いリスク管理態勢の充実に對する取組みが進捗しました。

コンプライアンス態勢の強化を図るべく、コンプライアンス・プログラムの見直しや本部担当部署による臨店指導を行うとともに、継続的な研修や啓蒙活動を行う中でコンプライアンスの実効性確保に向け取組みを強化いたしました。

(3) 地域利用者の利便性向上

日頃の営業活動の中でお客様からのご要望をお聞きするとともに、この2年間でお客様満足度の向上に向けた「お客様アンケート」を2回実施し、合計で約1,200名の方からご回答をいただきました。いただいたご意見をもとに業務改善を進めており、営業店の改造工事等にも活用させていただきました。この結果、営業店舗のバリアフリー化への取組みや受付窓口への携帯補聴器の設置等具体的な取組みを行うことが出来ました。今後もお客様の利便性向上に向けた取組みを強化してまいります。

また、狭域高密度による地域とのかかわりを重視した営業態勢を継続する中で、積極的に地域の行政とも連携を行い、「目黒区産業政策区民会議」、「地域経済・金融懇談会」等地域経済の活性化を目指す施策に参画するとともに、より良い地域の生活環境の確保を目的とした「めぐろグリーンアクションプログラム」、「目黒区地球温暖化対策地域協議会」、「安全・安心の街づくり」「振り込め詐欺防止対策モデル地区事業」への参画を通じて、地域の各種施策とも積極的に連携いたしました。

3. 要注意先債権の健全債権化等に向けた取組み実績について

本部に設置された企業再生支援グループが営業店と連携して実効性ある取組みを目指して活動を行いました。

この2年間で、経営改善取組み先30先のうち11先の企業先がランクアップとなりました。

経営改善支援の取組み実績（平成17年4月～19年3月）

（単位：先数）

		期初 債務者数	うち		
			経営改善支援 取組み先 α	αのうち期末に債務者区分 がランクアップした先数 β	αのうち期末に債務者区分が 変化しなかった先 γ
正常先		2,160			
要 注 意 先	うち その他要注意先	552	27	10	15
	うち要管理先	35	3	1	1
破綻懸念先		17			
実質破綻先		32			
破綻先		9			
合計		2,805	30	11	16

4 . 個人保証に過度に依存しない融資に向けた取組みについて

国民ひとりひとりがその能力や持ち味を十分に発揮し、努力が報われる公正な社会を構築していくことは、国政の重要課題であるとの認識のもと、内閣に「多様な機会ある社会」推進会議（再チャレンジ推進会議）が設置され、平成18年12月「再チャレンジ支援総合プラン」が策定されました。

個人保証に過度に依存しない融資の推進は、事業者の再チャレンジ支援に資する取組みであり、当金庫も平成17年8月に策定いたしました「地域密着型金融推進計画」においても取組むべき項目としてこの重点強化期間中、個人保証に過度に依存しない融資の推進や中小企業の資金調達方法の多様化に向けて取組んでまいりました。

個人保証に過度に依存しない融資の推進につきましては、キャッシュフローや定量的データに比重をかけ、担保・保証について過度に依存しない融資姿勢について営業店担当者を中心に研修や個別の臨店指導を通じて理解を浸透させることに注力し、全店的な認識は定着したと考えております。

中小企業の資金調達方法の多様化に向けた取組みの中で、知的財産担保融資、コベナンツやスコアリングモデルを活用した融資の実績はありませんでしたが、期間中、動産・債権譲渡担保融資について売掛債権を活用した売掛債権担保ローンの取組みをいたしました。今後とも中小企業の円滑なる資金調達に向けて個人保証に過度に依存しない融資について取組んでまいります。

< 売掛債権担保ローン取扱い実績 >

	平成17年度	平成18年度
取扱い件数	4	4
取扱い金額（百万円）	2	8
期末残高（百万円）	0	-

個別項目の取組みの進捗状況

項 目	取組み方針及び目標	進 捗 状 況
		17年4月～19年3月
I. 具体的取組み		
1. 事業再生・中小企業金融の円滑化		
(1) 創業・新事業支援機能等の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・制度融資の積極的活用を図るとともに、狭域高密度の活動に徹し、重点地域内で創業・新事業等の情報収集を図り、その中で、相談があった場合は通常業務の中で対応するほか、業務協力をすることになっている商工組合中央金庫等、必要に応じて外部機関の協力を得ながら対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のレベルアップを目的に臨店指導を全店実施し、融資担当者の審査能力向上に取組みました。 ・創業支援実績：14先 ・当金庫取引先等より独立開業した先へ制度融資を活用した創業支援の取組みを行いました。
(2) 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化		
取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域中小企業の活性化のためにもコンサルティング機能の充実に積極的に取組んでいく。 ・その為に各企業の情報を分析できる人材の育成、態勢の整備を図り、経営情報やビジネスマッチング情報の提供をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四半期ごとに東京都信用金庫協会が運営する「景況調査」に担当者を派遣し、地域の景気動向について分析調査を行うとともに、その結果を取引先企業に提供するため小冊子として店頭配布いたしました。 ・上記調査結果を地域行政にも生かすべく、地元行政、商工事業者関係代表、金融機関で構成される「景気対策情報連絡会議」に参画し、地域の景気動向、経済動向の共有化、検討を行いました。 ・ホームページにおいても、経営情報やビジネスマッチング情報を掲載し情報提供に努めておりますが、今後も地域に有益な情報提供ができるようコンテンツの目直しや整備を進めてまいります。
要注意先債権の健全債権化等に向けた取組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・企業再生支援グループが営業店と連携し、効果のある活動を行なう。過剰債務体質の先はその体質改善の可能性を見極め、ランクアップを目的に検討的に対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年4月より、半期毎に経営改善支援の取組実績(ランクアップ実績)をホームページ及び店頭備付けの小冊子にて公表いたしました。 ・平成18年度においては、支援先企業19先でスタートしましたが、期間中に5先を追加し、企業再生支援グループ、営業店が連携して企業再生支援活動を行いました。 ・この2年間の取組みの中で11先の企業がランクアップとなりました。今後も担当者のスキルアップに努めるとともに支援先企業に適したきめの細かい支援活動を行ってまいります。
健全債権化等の強化に関する実績の公表等	<ul style="list-style-type: none"> ・当金庫営業地区内の取引先企業に対し企業再生支援活動を通じ、地域経済、中小零細企業の活性化・発展に貢献することにより信用リスク量の低減、自己資本・収益力の強化を図り、地域における社会的使命を果たすことを目標として、その取組み実績について公表してい 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年4月より、半期毎に経営改善支援の取組実績(ランクアップ実績)をホームページ及び店頭備付けの小冊子にて公表いたしました。 ・今後とも、お客様にわかりやすい公表に努めてまいります。

項 目	取組み方針及び目標	進 捗 状 況
		17年4月～19年3月
(3)事業再生に向けた積極的取組み		
事業再生に向けた積極的取組み	・財務体質の改善を中心にランクアップ実績が図れるよう取り組む。過剰債務の先については健全化を目標にリスクの低減を図る。	事業再生ファンド組成への参画や「東京再生支援資金」の取扱い開始等新しい取組みも行き、再生支援活動とともに事業再生に向けた取組みを積極的に行いました。今後は、担当者の更なるスキルアップを行い、継続的な取組みを行ってまいります。
再生支援実績に関する情報開示の拡充、再生ノウハウ共有化の一層の推進	・過剰債務体質の企業をどのように再生させたか、その支援実績やノウハウについて各営業店と連携し取引先の経営実態を的確に把握し、財務内容の改善による債務圧縮を促す。 ・過剰債務を圧縮することにより、再生できる先は営業店・本部と連携して改善を推進する。	再生支援実績につきましては、平成17年5月より「リレーションシップバンキング機能強化計画書進捗状況」の中で掲載し、店頭及びホームページで公表しております。今後とも、お客様にわかりやすい公表に努めてまいります。
(4)担保・保証に過度に依存しない融資の推進等		
①担保・保証に過度に依存しない融資の推進等	・担保・保証に過度に依存しないため、企業のキャッシュフローを算出しこの分析に対する認識を高めて、審査能力の向上を図る。また、事後モニタリングの強化により財務内容の変化を見逃さないよう徹底する。	期間中、キャッシュフローや定量的データに比重をかけ、担保・保証についても過度に依存しない融資姿勢について融資会議、臨店指導を通じて理解を浸透させることに注力いたしました。今後もこの取組みを強化してまいります。
中小企業の資金調達手法の多様化等	・売掛債権担保ローンについて既にスキーム等の理解は得られつつあるが、再度周知徹底を図り、そのプロセスの整備を行い今後も取り組んでいく。 ・新銀行東京と提携しその機能の活用を検討していく	中小企業の資金調達手法の多様化を図るため売掛債権担保ローン、新銀行東京の提携融資について取組みました。今後も中小企業の資金調達手法の多様化に向けた新しい手法を採り入れながら、個別企業に適した継続的な支援を行ってまいります。
(5)顧客への説明体制の整備、相談苦情処理機能の強化	・与信取引に関する顧客への説明態勢の整備と契約内容や金融商品説明義務の周知徹底およびスキルアップと説明態勢の整備を行っていく。 ・法令にあった説明義務履行のため、ホームページへ最新情報の提供を随時行っていく。 ・苦情全般については、規程・マニュアル等による勉強会の継続実施によりスキルアップをはかっていく。	当金庫の苦情・トラブルの取り扱い状況や全国しんきん相談所に寄せられた苦情・相談等を本部にて取りまとめ、コンプライアンス委員会で検討するとともに、改善事項等について全営業店にフィードバックし、早期の改善や認識の共有化を図りました。
(6)人材の育成	・目利き力の強化等といった企業の将来性や技術力を的確に評価するための取組みを継続することで身に付けた能力をベースに審査・管理が行える態勢を強化し、担保・保証に過度に依存しない融資を引き続き推進していく。また、事業再生・経営支援に向けた取組みも強化が必要である。	業界団体が行うセミナーや金庫の助成金制度を活用した通信講座の履修を通して人材育成に努めました。今後も各種外部研修に積極的に職員を派遣し、事業再生・中小企業金融の円滑化を図れる職員の育成に努めてまいります。

項 目	取組み方針及び目標	進 捗 状 況
		17年4月～19年3月
2. 経営力の強化		
(1) リスク管理態勢の充実	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年3月末からのパーゼルⅡの円滑なる導入にむけて、各リスクカテゴリーの測定方法の決定および試算を早期に進める。また、計量化されたリスク量をもとにリスク管理委員会を中心としたリスク管理態勢機能の実効性を高める。 	<p>パーゼルⅡ対応に向けた取組みを進める中で、リスク計測に対するシステムや人的対応も含め、リスクの計量化への取組みが進捗し、パーゼルⅡへの対応も整いました。</p> <p>また、計量化されたリスク量をもとにALM委員会やリスク管理委員会において統合的なリスク管理態勢について検討を行いリスク管理態勢の充実に対する取組みは進捗しました。</p> <p>今後、各リスクの計量化への取組みをさらに進めるとともに、計量化されたリスクをもとにリスク管理態勢機能の実効性を高めてまいります。</p>
(2) 収益管理態勢の整備と収益力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 信金中央金庫の「信用金庫業界の中小企業信用リスクデータベース(以下、SDBという。)」の有効活用を図る。 管理会計的な手法について、共同センター新システムへの乗換えで体系的な対応をするとともにその活用を図り収益管理態勢の整備と収益力向上に向けた取組みを推進する。 	<p>取引先の共通格付の日時更新が可能になる等、進捗が見られました。また、今期において、共同事務センター新システムへの乗換えのためのネットワーク更改を実施し、システム導入に向けた態勢整備が図られました。</p>
(3) ガバナンスの強化		
協同組織金融機関におけるガバナンスの向上	<ul style="list-style-type: none"> 半期開示 パーゼルⅡ等の動向を踏まえ、内容を充実させていく。 総代会の機能強化 総代会の機能拡充に向けて、引続き総代会に関するディスクロージャーを継続し透明性を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 17年6月の総代会において、会員からの意見・要望を積極的に取り入れ健全経営を目指すことを宣言する。 17年11月、9月期における半期開示を実施する。 17年8月、2005年版ディスクロージャー誌で総代会制度について掲載。 18年6月の総代会において一般会員・お客様からの意見・要望事項の対応について報告する。 18年7月、2006年版ディスクロージャー誌で総代会制度について掲載。 今後も引き続き積極的に一般会員・お客様からの意見・要望等を取り入れ金庫経営に反映させてまいります。
(4) 法令等遵守(コンプライアンス)態勢の強化		
営業店に対する法令等遵守状況の点検強化等	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス規程、マニュアル、倫理綱領の活用により職員の法令遵守意識の向上に努める。 内部監査の充実・自店検査の徹底に努める。 コンプライアンスチェック報告の励行と問題点の検討と改善を行う。 本部集合研修や店内勉強会の継続実施を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス委員会・委員長及び事務局が営業店を全店臨店し、コンプライアンス・プログラムの進捗状況、連続休暇制度、セクハラ、パワハラ、不祥事対応等について調査・指導を継続しております。 今後も臨店チェック・指導を継続実施し、推進体制・啓蒙活動の強化を図ってまいります。

項 目		取組み方針及び目標	進 捗 状 況
			17年4月～19年3月
	適切な顧客情報の管理・取扱いの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な教育訓練により、適切な顧客情報の管理・取扱いの実効性を確保する。 ・顧客情報管理・取扱いについての規程・マニュアル・管理手法について適時見直し実効性を確保していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・17年4月 コンプライアンス・プログラムおよび臨店検査項目に顧客情報保護に関する件を追加。「業務日誌」「機械警備当番日誌」に個人情報保護に関する項目を追加。 ・コンプライアンス委員会の委員長及び事務局が営業店を順次臨店し、コンプライアンス・プログラムの進捗状況の調査を実施。 ・パソコン等ネットワーク機器使用に関するセキュリティーチェックのため、全営業店を臨店し、指導、教育を行いました。 18年度下期 ・コンプライアンス・マニュアルの「個人情報保護に関する件」に個人情報保護安全管理措置を追加。 ・19年3月ファクシミリを誤送信防止システム対応機種へ全店更新を行いました。
	(5)ITの戦略的活用	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度の事業計画の中でも、経営基盤の強化として、ITバンキングの積極的な取り組みを掲げており、特に法人インターネットバンキングの契約先増加を重点目標として推進していく。 ・共同事務センターのシステム活用のためにも新システムへの乗換を検討していく。 	<p>新ネットワークの構築とサーバの乗替え作業に伴い、サーバを共同事務センター内(品川)へ移設し、各営業店へのオンラインネットワークを分散することで、災害時や電力障害時等におけるリスク分散化が図られました。また、為替FAX-OCRの外部委託を決定しており、外部委託による事務の省力化を図る等進捗が見られました。</p> <p>戦略的な活用に向けてネットワークやシステム面の更新や導入が進捗したが、さらに有効活用を行うために教育を含め継続的な人材育成が今後の課題です。</p>
	(6)協同組織中央機関の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も信金中央金庫の分析制度及びALM支援機能を活用して業務運営に活用するとともに、リスク管理能力の更なる向上を目指す。 	<p>経営分析制度等による経営支援機能や運用商品の利用等、協同組織中央機関の活用が継続的に図られ計画はスケジュール通り進捗しました。今後とも信金中央金庫との連携を積極的に図り、有効活用に努めてまいります。</p>

項 目	取組み方針及び目標	進 捗 状 況
		17年4月～19年3月
3. 地域の利用者の利便性向上		
(1) 地域貢献等に関する情報開示		
地域貢献に関する情報開示	<p>・これまでの地域貢献に関する開示に対する取組みを踏まえ地域にとっての当金庫の社会的責任、存在意義を顧客にわかりやすい形で情報開示をしていく。</p>	<p>ディスクロージャー誌やホームページを通じて金庫の財務等を含めた内容とともに地域社会への取組状況を今まで以上に広く顧客へご理解いただけるよう取組みを進めました。</p> <p>「お客様にわかりやすい開示」を主眼として取組みを継続してきましたが、バーゼルⅡへの対応を含め、開示の充実が求められており、内容も多様化する中で、地域のお客様によりわかりやすい開示をしていくことが今後の課題です。</p>
充実したわかりやすい情報開示の推進	<p>・顧客に分かりやすい情報開示を推進するため、ディスクロージャー誌の充実、ホームページの更なる活用を行う。</p>	<p>ディスクロージャー誌、半期開示のリーフレットの作成やホームページを通じて情報開示の充実に向け、特にホームページの有効活用への取組みに進捗が見られました。</p> <p>今後、バーゼルⅡに対応した経営内容の開示等、情報開示の内容についても多様化していくので、さらに顧客にわかりやすい開示を目指して継続して工夫を行ってまいります。</p>
(3) 地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立	<p>・お客様満足度向上に向けて、これまでの当金庫の行ってきた取組みについて再検証するとともに、お客様満足度を重視した経営を確立するため、お客様の声を反映させる施策について検討し、業務改善につなげていく。また、その内容についてできる限り公表していく。</p>	<p>苦情、相談についての取組みは、営業店・本部が一体となった取組みを継続し、また、相談窓口についても、人的対応の他、インターネット上の窓口、「ご意見箱」の設置、「お客様アンケート」等を通じて広く受け付ける態勢として、計画通り取組みは進捗しました。</p> <p>今後、この取組みを継続するとともに、研修・指導の実施や利用者の声のモニタリング方法の見直し等を行い、利用者の満足度向上にむけた業務改善に取り組んでまいります。</p>
(4) 地域再生推進のための各種施策との連携等	<p>・目配り・気配り・心配り（CS運動）のあるお客様対応に心がけ、お客様第一・地元第一の営業施策を徹底する。</p> <p>・「創意工夫」の営業活動と「誠心誠意」のお客様への対応。</p> <p>・「めぐろの力で地元を元気にする」の実践。</p> <p>・「地域経済・金融懇談会」「目黒区産業政策区民会議」等への参画により、積極的な支援と地域貢献を図る。</p>	<p>地域再生推進のため、行政とも積極的な連携を図り、「目黒区産業政策区民会議」、「地域経済・金融懇談会」等地域経済の活性化を目指す施策に参画するとともに、よりよい地域の生活環境の確保を目的とした「めぐろグリーンアクションプログラム」、「目黒区地球温暖化対策地域協議会」、「安全・安心の街づくり」振込め詐欺防止対策モデル地区事業への参画を通じて、地域の各種施策とも積極的に連携し、取組みは進捗しました。</p> <p>今後も地域金融機関として地域の利用者の利便性の向上とともに地域再生に向けて各種施策と連携してまいります。</p>
4. 進捗状況の公表	<p>・当金庫の「地域密着型金融の機能強化の推進に関するアクションプログラム」に対しての取組状況を地域のお客様に対し、より分かりやすい形で半期ごとに公表していく。</p>	<p>「地域密着型金融推進計画」について、要約をポスターとして掲示するとともにホームページ上においても掲載しております。</p> <p>また、進捗状況についても、「地域密着型金融推進計画」と同様に店頭パンフレットとホームページ上で公開を継続して行いました。</p>

目黒信用金庫の「地域密着型金融推進計画」の進捗状況について（要点）

（平成17年4月～平成19年3月）

当金庫が目指す金庫像

目黒信用金庫は「地域密着型金融推進計画」における当金庫の目指す金庫像の基本理念として

地域との絆を強くし地域との共生を志す。

地元企業の発展と地域住民の安定したライフスタイル向上をお手伝いする。

の2つを挙げて、当金庫の特徴である狭域高密度営業政策を更に押し進め地域活性化を目指します。

「地域密着型金融推進計画」主要項目の進捗状況

1. 事業再生・中小企業金融の円滑化

「最大限の機動力を発揮して地元の安心と豊かさに貢献する」の基本理念をもとに営業店と本部企業再生グループが一体となり、お客様に適した支援を行うことを第一として、新たに支援先企業を追加する等、取組みの強化を図りました。この結果、支援先企業30先のうち11先の企業が経営改善に至りました。

新しい取組みとして、事業再生ファンド組成への参画や新銀行東京との業務提携等により、事業再生・中小企業金融の円滑化に向けた取組みが進捗しました。

また、目利き、情報収集、適切な再生支援という職員の能力向上に向けた取組みに注力し、研修の実施や本部担当部署による臨店指導を全店実施し、人材育成に努めました。

2. 経営力の強化

パーゼル（新しい自己資本比率規制）対応に向けた取組みを進める中で、リスク計測に対するシステムや態勢も含め、リスクの計量化への取組みが進捗し、パーゼルへの対応も整いました。また、ALM委員会やリスク管理委員会において統合的なリスク管理態勢について検討を行い、リスク管理態勢の充実に対する取組みが進捗しました。

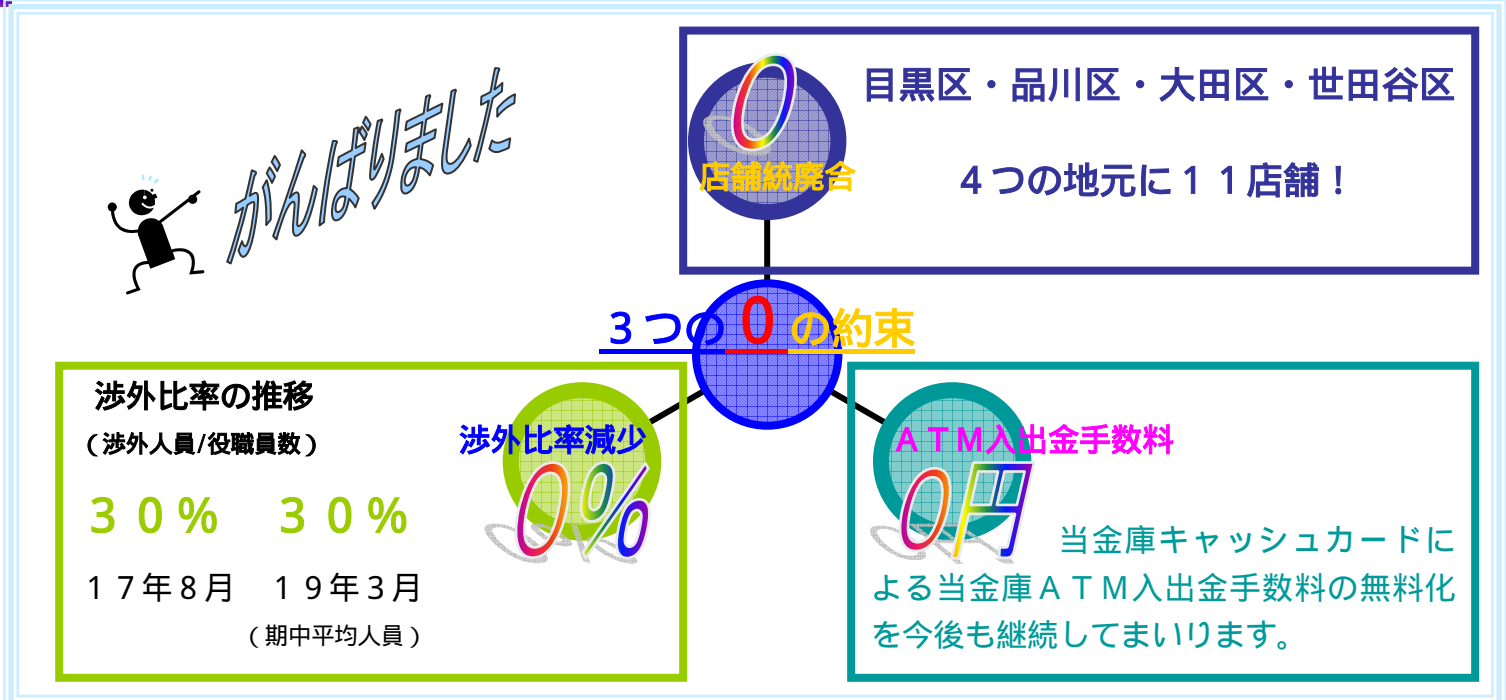
また、コンプライアンス態勢の強化を図るべく、コンプライアンス・プログラムの見直しや本部担当部署による臨店指導を行うとともに、継続的な研修や啓蒙活動を行う中でコンプライアンスの実効性確保に向け取組みを強化いたしました。

3. 地域利用者の利便性向上

お客様満足度の向上に向けた「お客様アンケート」を実施し、約1200名の方からご回答をいただきました。いただいたご意見をもとに業務改善を進めており、営業店舗バリアフリー化への取組みや受付窓口への携帯補聴器の設置等具体的な取組みを行うことが出来ました。今後もお客様の利便性向上に向けた取組みを強化してまいります。

また、狭域高密度による地域とのかかわりを重視した営業態勢を継続する中で、積極的に地域の行政とも連携を行い、地域経済の活性化を目指す各種施策や地域の生活環境向上のためのプログラムと積極的に連携しました。

重点強化期間における地域のお客様への約束



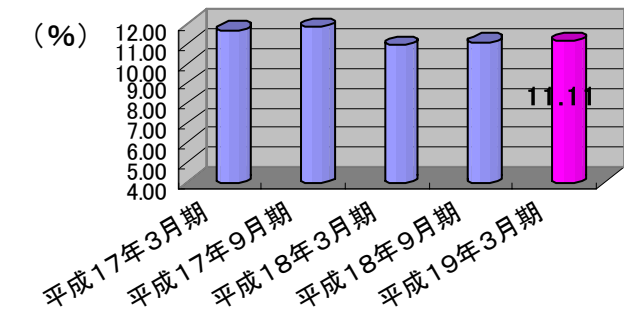
重点強化期間における経営指標上の目標の進捗状況

自己資本比率 = 12%台

平成19年3月末においては

11.11%（前期比0.19%増加）

と、目標には至りませんでした。引き続きお客様に安心していただける健全性を維持しております。

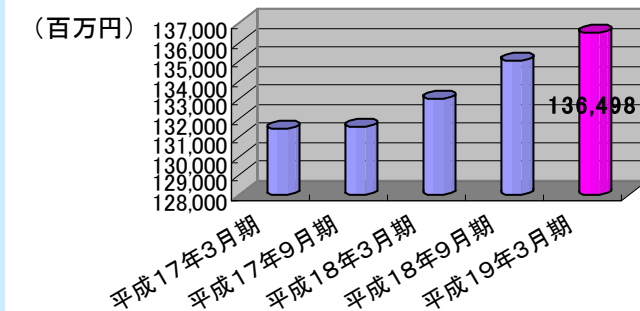


預積金残高 = 1,350億円以上

平成19年3月末においては

お客様からご信頼をいただき、

1,364億円と目標を達成することが出来ました。



出資会員数 = 11,500名以上

平成19年3月末の出資会員数は、

11,595名と目標を達成することが

出来ました。今後とも「めぐりのファン (=会員)」を増やしてまいります。

